

アートとなる風景

- 都市を魅了する環境共生型ランドスケープ -

202058 吉永 涼佑



○エコロジカル・アーバン・ランドスケープ (EUL) を応用したデザイン

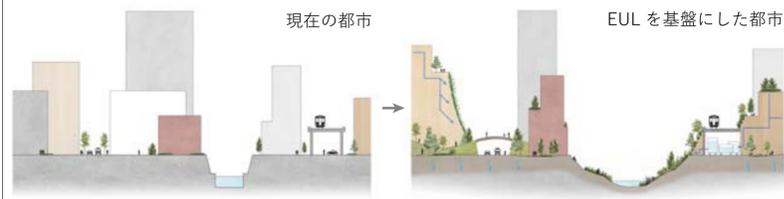
EULは地域の潜在能力を活かして人・生き物双方にとって魅力的かつ、その都市でしか成し得ない空間、環境、風景を保全・創出するデザイン手法。「建築」「インフラ」「ランドスケープ」が一つに調和され、美しく持続可能な都市を総合的に計画・設計していく。

建築 × インフラ × ランドスケープ

現在の都市構造

関係性のデザイン

人 × 人
人 × 自然
自然 × 自然



建築・インフラ>ランドスケープ

建築=インフラ=ランドスケープ

<EUL 四要素>

文化、歴史
経済、社会
人々の記憶・感情
など



生態系、地形、地質
水循環、土壌、植生
など

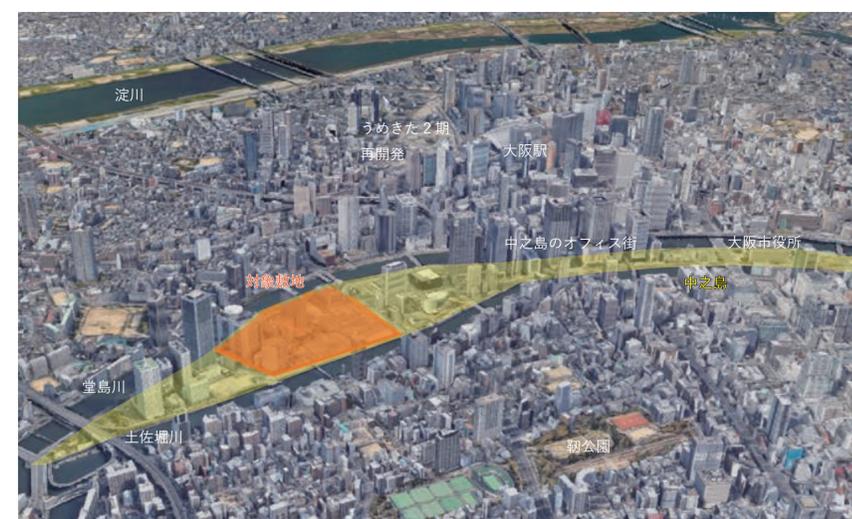
景観
意匠建築
土木デザイン
など

排水、雨水利用
エネルギーシステム
造成、環境建築
など

<EUL 五原則>

- ①地域環境の潜在能力を見きわめる。
- ②人が手をつけても良いところといけなところを正しく認識する。EL三原則
- ③人が1/2造り、残りの1/2を自然に創ってもらう。
- ④内部と外部、水平と垂直の関係性を意識する。
- ⑤都市環境の基盤をつくり、人も自然も多様性のある空間を。

○対象敷地について



・大阪市北区 中之島五丁目 (約7ha)

中之島は堂島川、土佐堀川に挟まれた東西約3km、面積約50haの中州である。文化施設、オフィス、商業施設が集結し、大阪市を代表する行政、経済、文化の中心地となっている。2031年にJRなにわ筋線が開通予定で、新駅に隣接する五丁目は再開発が予定されている。また、付近は明治時代に初めて洋紙が作られたことから「近代製紙発祥の地」とされている。



更地の対象敷地と高層ビル群の夜景

「近代製紙発祥の地」の碑

Concept
都市のキャンパスとなる空間を舞台に、多様な人々・生き物が創る風景そのものをアートとして捉える。

○空間の造形モチーフ

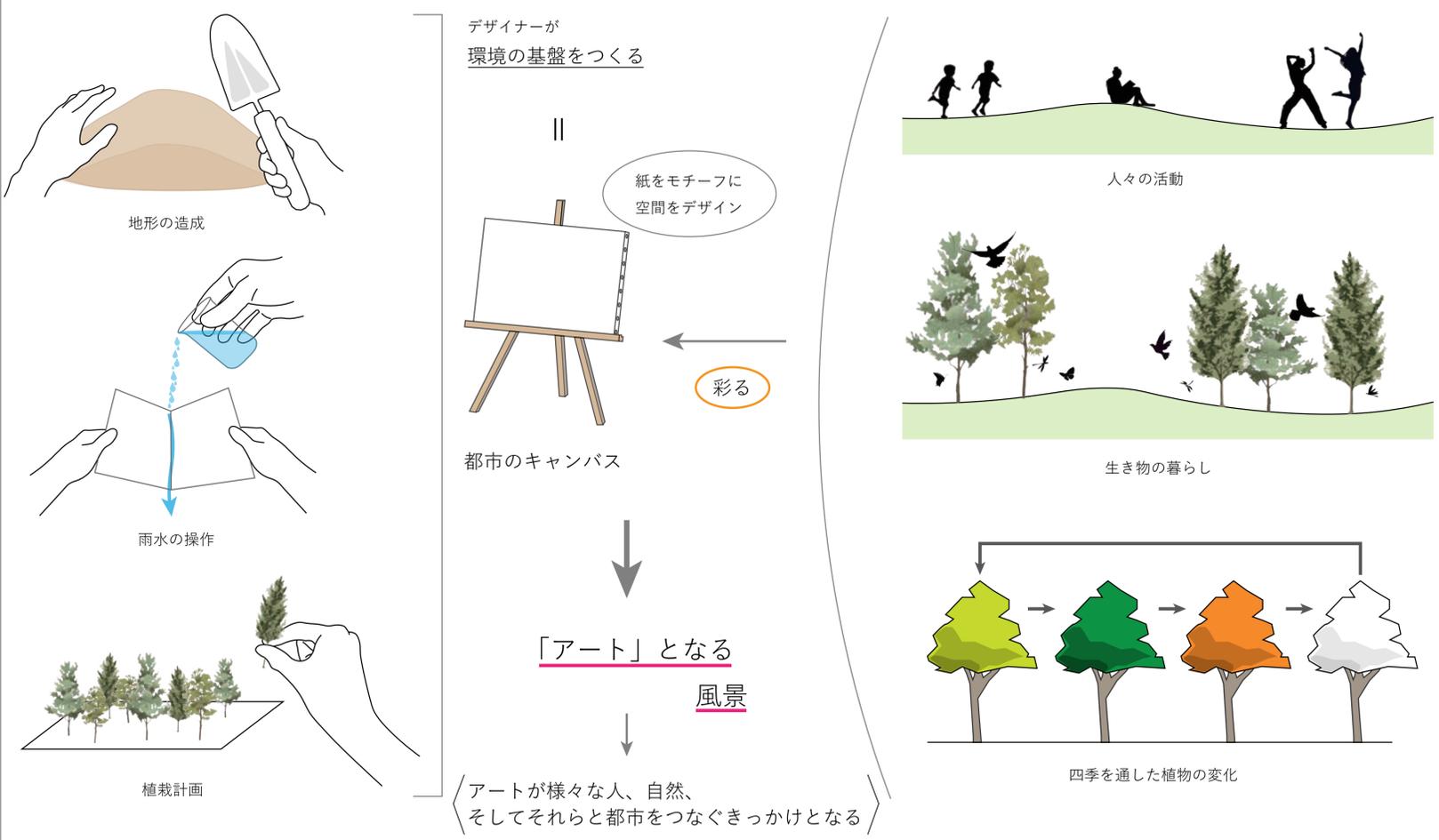


<紙>

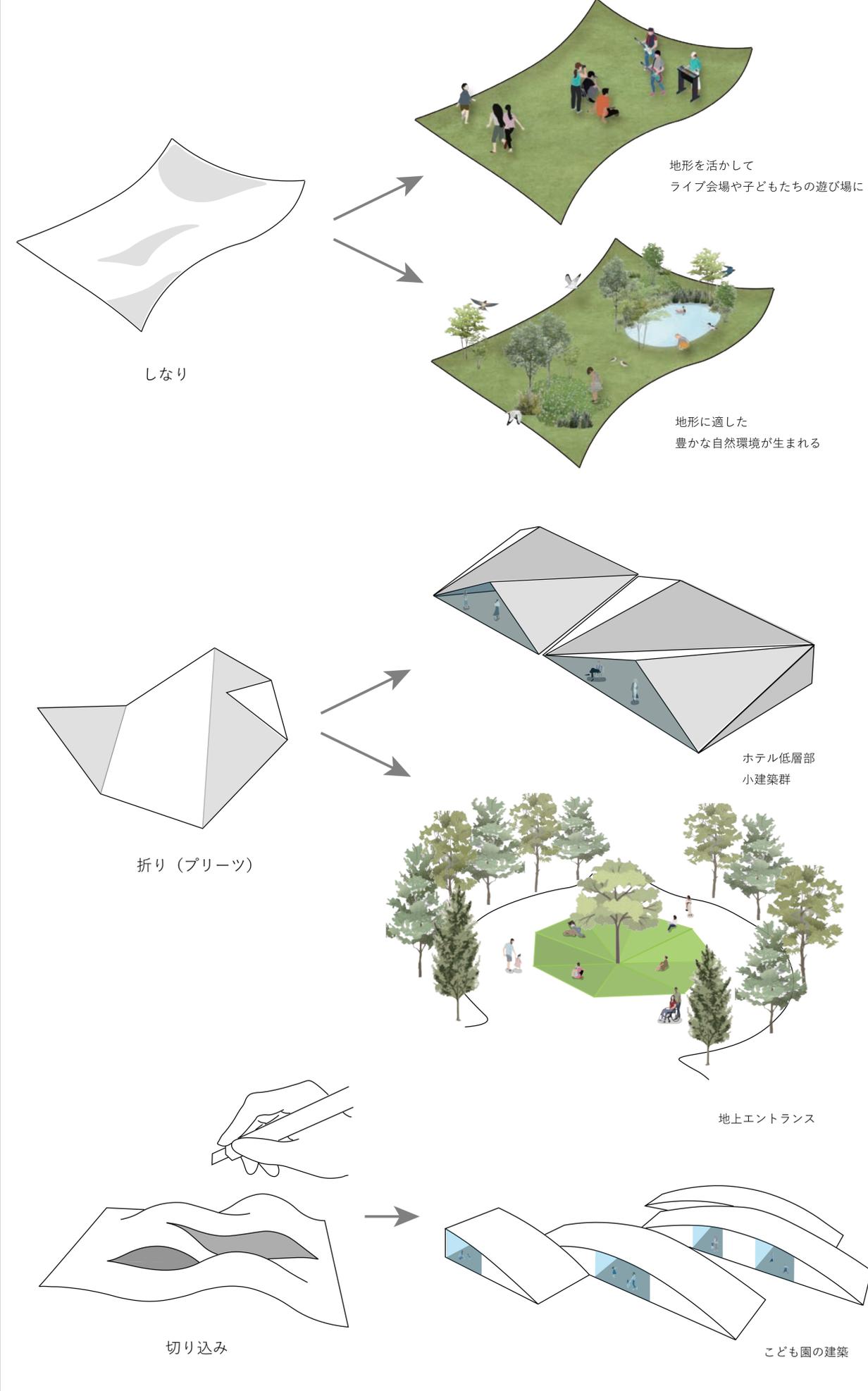
対象地が「近代製紙発祥の地」であることから着想を得て

出来上がる空間は1つの**キャンパス**になる。
地形操作などのランドスケープデザインによって人々の活動や豊かな自然を誘発する。そして空間とそれらが合わさった風景を「アート」として捉え、大阪という都市の新たな文化や環境の形成に寄与していく。
人々や生き物、自然が主役となる「アート」は時と共にまた違ったかたちの「アート」となる風景を生み出していく。「アート」は多様な人と人、自然と自然、そして人と自然をつなげるきっかけとなり、都市に新たな恵みをもたらし続けていく。

○コンセプトダイアグラム



○紙をモチーフにした空間



○あいまいな空間



模型写真

屋外空間と小建築群は用途をはっきりと決めない「あいまいな空間」である。デザイナーが思ってもみなかった使われ方をすることもあるだろう。あくまでもデザイナーは環境の基盤（＝キャンパス）をつくるまでで、人々が自身のクリエイティビティをこの地で発揮し、アートとなる風景を生み出していく。

○平面計画コンセプト

